

虹の素 雨上がりには好きだといって Vol.9 11月編

「ノウエンの音」

桜木想香

それは、誰にも見向きもされずに。
見つけられるのをじっと待ってる。

CAST

- ♀ 加九 アイリ ……2年D組。保健室登校。演劇部の脚本家。
♀ 滑 美子 ……1年C組。保健室登校。しょっちゅう何かを食べている。
♀ 滝口 若菜 ……2年A組。陸上部の短距離選手。県大会9位の成績。
♀ 倉持 緑 ……2年D組。美術部。生徒会副会長。
♀ 篠原 紫 ……2年D組。美術部。図書委員。彼氏がいる。
♂ 小町 神楽 ……臨時の養護教諭。

神奈川県立横南高校。横浜市内の丘の上にある。

来年度より、県立浜北高校と合併し新設校になるため、最後の1年である。

「雨上がりには好きだといって」シリーズは、時代を2013年に設定していますが、実際の史実・時代状況とは違う箇所もあります。

「OPENING」

二月一日金曜日。保健室。

カレンダーは10月のまま、室内にはまだハロウィンの小物が飾られている。白衣を着た人が現れる。どうやら先生のようなだ。飾られているハロウィンの小物を片付けていく。

一人の女子生徒（美子）が入ってくる。

神楽 おはようございます。

神楽 どうかしました？

美子 あ、いや…あの、志和先生は…？

神楽 ああ。病院です。

美子 病院？

神楽 一ヶ月、入院だそうです。

美子 どうしたんですか？

神楽 さあ、そこまでは聞いてないので。聞いてたとしても、生徒に教えるようなことでもないですかね。

美子 ああそう。

神楽 えー、滑（なめら）さんですか？

美子 あ、はい。

神楽 小町神楽です。一ヶ月だけの臨時ですが、よろしくお願ひしますね。よろしくお願ひします。

神楽 早速で申し訳ないのですが、片付けるのを手伝ってもらえませんか？
美子 はい。

神楽 えー、聞いた話ですと、もう一人来るようですが。

美子 あ、でも加九先輩は今日は多分来ません。
神楽 なぜ？

美子 金曜日は学校自体来てないみたいなので。

神楽 ああ、サボリですか。

神楽 最近のサボリは、引きこもるんですねえ。

美子 どういうことですか？

神楽 昔はサボリと言っても、学校には来てました。学校に来て、授業に出ないで、先生に追いかけてられて。

美子 そうなんですか。

神楽 サボるの語源、ご存知ですか？

美子 えっと、あれですよ。サボタージュ。

神楽

そうですね。フランス語の。正しい意味はわかりますか？

美子

え、正しい意味？……怠ける、じゃなくてですか？

神楽

ええそうですね。日本だとそういう意味で用いられますが、それは派生した二つ目の意味なんです。

美子

二つ目の意味？

神楽

元々の意味は労働争議の手段の一つでした。ストライキが全く仕事をしないのに対して、サボタージュは仕事を怠けながらすることです。そこから「怠ける」だけが残ったのが日本語のサボるですが、本来は環境を改善するために闘うという側面も持っていることを覚えておいてもらいたいです。

美子

はい。

神楽

昔の子たちは、サボってましたね。一つの枠に収めようとする学校に対して、その枠に収まりきれないエネルギーを持て余してました。

美子

そして闘ってました。

神楽

先生と？

美子

わかりやすい対象としてはそうですが、彼らはもったなくなにかこう、漠然としたものと闘ってました。

神楽

漠然としたもの。

美子

それ比べて最近の子たちは、とにかく省エネですね。

神楽

そういうことなら、加九先輩はサボりなんかじゃなくて、闘ってます。

美子

扉が開き、一人の女子生徒（アイリ）が入ってくる。

神楽

おはようございます。

美子

あれ、加九先輩、来たんですね。

アイリ

なめこ！私、学校辞める！！

神楽、カレンダーを破る。二月になる。

神楽

二月ですね。

陰っていく。

「1」

二月五日火曜日。保健室。3・4時間目の調理実習。
指を切った紫の止血をしている。付き添いの緑いる。

緑

紫

緑

紫

アイリ

紫

緑

紫

緑

紫

緑

アイリ

紫

アイリ

紫

ごめんね紫！本当にごめんね。

大丈夫だって。ちよつと切ったくらいで大袈裟なんだから。

だって、紫をキズモノにしちゃった！

ちよつと言ひ方。

じゃあ紫の貰い手がなかったら責任とらなくちゃね。

おいっ、縁起でもないこと言うなよ。

もう本当でもしますから。

言ったな？言ったな？じゃあ会長に告れ！

ムーリー！それはムーリー！

何でもするって言ったじゃん！

だってええええ。

なになに、緑アッキーのこと好きなの？

ちがっ

もうほんつとわっかりやすいよねー。

ね。

んでき、この前会長のカバンにプレゼントの包みがあったらしくて、あげたんだかもらったんだか知らないけどそういう子がいるのかな。誰なのかなどうなのかなーってずーっとうじうじ悩んで。それで上の空で私包丁持ってるのにおつかつてきてコレよ？

だから本当にごめんってー！

やだ、告白しないと許さない。

なんでよーさつきと言ってること違うじゃーん！

私そうやってうじうじしてるの嫌い。

うううううううう。

だってあんたよく考えてごらん？クリスマスまであと2ヶ月だよ？

12月になってから付き合ってごらん？「あークリスマスまぼっちにな

りたくないから付き合ったんだな必死だなこいつ」って周りから思

われるよ？

いや紫それは自意識過剰すぎるでしょ。

いやそんなことないって！それにさ、付き合っすぐのクリスマス

でなんか互いにドギマギしてるのと、付き合っから時間があって

少し恋人っぽい雰囲気になってからのクリスマスならどっちがいい

よ？

恋人っぽくなっから。

でしょー？だったらもう二月中に付き合わないといけないわけよ。

紫

緑

紫

アイリ

紫

緑

紫

緑

アイリ

緑 わかるけどお。
神楽 あのさ君たち。楽しいガールズトークの最中悪いんだけどさあ、手当

緑 は終わってるんだから早めに授業に戻りなさいよ。

神楽 えー先生そんなつまらないこと言っちゃうー？

神楽 先生は先生としての立場を守っただけですー。

アイリ 何作ってるの？

緑 栗ご飯！とヒラメの煮付け！

紫 カレイね。あと小松菜のおひたしとかきたま汁。

アイリ へー。

緑 アイリももう教室おいでよー！

アイリ うん、まあそのうちね。

緑 そのうちじゃなくて！だってこのままズルズルしてたらどンドン来つ
らくなっちゃうよ？12月に入ったらすぐ冬休みだよ？

紫 あんたがそれを言うか！

アイリ 紫はどうなのよ、ケンジと。

紫 私？私の話はいいよ。

緑 なんですよ！私のことばかりでずるい！

紫 えーだつて別に私おもしろくないもん！

緑 いいからいいから、ノロけちゃいなよー！

紫 いやーなんていうか、んー…

緑 なになに！

紫 いやーなんか、あーんー、好きなのかわかんない。

緑 えーうそでしょー！ケンジめっちゃわかりやすいじゃん！

緑 いや、好きかわかんないって、紫がでしょ。

アイリ えっどういふこと？

紫 だから、私本当にケンジのこと好きなのかなって。

緑 えっマジマジマジ？詳しく詳しく！

緑の携帯が鳴る。電話に出る緑。

緑 はいー？うん大丈夫ーもう終わってる。はいはいわかったよー。今

切られる。

紫 なな？

緑 ご名答。

アイリ 激おこでしたね。

紫 さ、早くもどろ。

緑 あっちよつと話！あ逃げた。もー。

アイリ 緑も早く戻りな。

緑 うん。あ栗ご飯いる？持ってこようか？

アイリ

ううん大丈夫。

緑

あそう？

アイリ

ほら早く行きな。なながブンブン丸になる前に。

緑

もうなってると思うけどね。

緑、出て行く。ついたての陰から、美子が出てくる。

アイリ

ごめんね、騒がしいヤツらで。

美子

いえ。

美子

加九先輩は、友達いるんですね。

アイリ

え？ああ、まあ友達っていうか、クラスメイト？

美子

クラスメイトって、そんな寂しい言い方ないんじゃないですか？

アイリ

そう？

美子

そうですよ。友達じゃなくてクラスメイトって言われたら寂しくない

アイリ

ですか？

アイリ

まあそれはね。でも私は、同じクラスってだけで私たち友達だよ。

美子

って感じで当たり障りなく馴れ合ってる方が嫌だな。

アイリ

馴れ合ってくれるだけ良いじゃないですか。

美子

なめこはさ、クラスの子達と友達になりたいって思うの？

アイリ

そんなの当たり前じゃないですか。

アイリ

仲良くしてくれない子達と、無理して仲良くなりたいうって思うの？

美子

そっちの方が苦しくない？

アイリ

じゃあどうしたら良いんですか。

美子

なめこと仲良くしてくれる人と仲良くなれば良いんだよ。

アイリ

そんな人いないからここにいるんじゃないんですか。

美子

なめこ、お前の世界はここにしかないのか？

アイリ

私は、友達は自分で選んで良いと思う。勝手に割り当てられたクラス

アイリ

の中で決めなきゃいけないなんて間違ってる。

神楽

はいふたりとも。おしゃべりするのの良いけど、課題のプリントは終

神楽

わらせてからにしましょうね。

美子

はい。

美子

美子、再びプリントに向かう。アイリはノートに向かって何か書いている。

神楽

はい、脚本ですか。

神楽

はい。

アイリ

これは舞台の脚本ですか？

アイリ

そうですけど。

神楽 そうですか。
加九先輩演劇部ですよ。
神楽 隣の加九はよく柿食う加九だ。
アイリ 客です。
神楽 わかってますよ。

神楽 加九さんは脚本を書くんですね。
アイリ 面白くないです。
神楽 そんな自分の書いてる作品を面白くないって言っているんですか。
アイリ そうじゃなくて先生のギャグが。
神楽 ギャグ？

アイリ 加九が書くって。
神楽 ところで加九さん、プリントは？
アイリ 別にやりません。
神楽 そうですか。

アイリ だって受験するためだけの勉強って感じすごいですもん。なんか、生きてくための知識じゃないっていうか。英語とかあれでしゃべれる気しないし、現文とか全然読解じゃないんだもん。ただ正解を見つけてるだけって感じ。まあ政経と家庭科はやつといた方が良いかなんて思うけど。

神楽 加九さん。
アイリ なんですか。

神楽 先生は何も言ってませんけど？

神楽 何か言い訳したいことがあるんですか？
アイリ ……意地悪ー。

神楽 わかりました。受験するための勉強が嫌なんですよね。そしたらプリントをやらない代わりに、先生から一つ、加来さんに課題を出してもいいですか？

神楽 何ですか？
アイリ この学校にある、二月を探してください。
神楽 ……は？

神楽 この学校にある二月を探してください。
アイリ ……いやどういふことか意味がわかりません。
神楽 二月だなんて思うことを見つけてくれればいいんです。
アイリ 何ですか？

神楽 それは、やってみればわかりますよ。
アイリ ……本当に。
神楽 本当に。

アイリ その課題をやるのは、私1人ですか？

神楽
と言うど？

アイリ、隣の美子を促す。

美子
えっ。

神楽
うーんだとしたら、滑さんには、また別のものを探してもらいたいで
すね。

アイリ
別のもの？

美子
何ですか？

神楽
滑さんは、9番目の音を探してください。

美子
9番目の音？

アイリ
何ですかそれ。

神楽
それを考えてください。

チャイムが鳴る。陰っていく。

二月二日月曜日。保健室。2時間目の途中。
美子がゆでたまごの殻をむいている。アイリ、トイレから戻ってくる。

美子

大丈夫ですか？

アイリ

うんまあもう終わりかけだから。あれ、先生は？

美子

外行きました。ほら、なんか紫陽花の剪定？してます。

アイリ

紫陽花の剪定？本当だ。なんでまた。

美子

さあ。

アイリ、カバンからポツキーを取り出す。

美子

あ、ポツキー。

アイリ

今日のおやつはこれ一択でしょ。

美子

ですね。

アイリ

なめこは今日もゆでたまごタイムなのね。

美子

……はい。

アイリ

いや、別に深い意味はないから！いいじゃん食べたんだから、食べ

美子

れば。てかなめこ、殻むくの下手すぎじゃない？

美子

そうなんですよ、全然うまくむけなくて…。

アイリ

不器用か。

美子

……だからここにいるんじゃないですか。

アイリ

卑屈になるなよ。

美子

だって私先輩みたいに器用じゃないですもん。

アイリ

ちよっと待ってちよっとまてー。私のどこが器用なのさ。めっちゃ不

美子

器用じゃん。

美子

そうですか？

アイリ

器用だったらこんなところにいないでしょ！

美子

私と同じじゃないですか。

アイリ

でも私、不器用なこと悪いと思ってないよ。

美子

そうなんですか。

アイリ

だってもうそうやって生まれてきちゃったんだからしょうがないじゃ

ん。まあそりゃね、なんで私ってこんななんだろうって思うときいっぱいあるよ？めっちゃくちゃいっぱいあるよ。もうやだ自分嫌い死にたいってしょっちゅう思うよ。でも結局生きてくしかないからね。与えられた手札は決まってるわけだから、その手札をどう使うか考えてくしかないんだよ。手札が悪いって嘆いても仕方ないんだよ。すごいなあ、私もそんな風に考えられたらいいのになあ。

美子

別に殻をむくのがうまくてもへたくそでも、卵の味は変わらないよ。

アイリ

美子
アイリ
そうですね。
はい、ポツキー。

アイリ、ポツキーを口に差し出す。加える美子。

アイリ
美子
アイリ
アイリ
そういえばさ、見つかった？9番目の音。
いや、全然。なんのことだかさっぱり。
そっか。

音階的には、高いレか、黒鍵も含めるならソの井なんですけど、でも私絶対音感とかじゃないからそういうのわからないし、そもそも本当にドを基準にしているのかもわからないですし。

へー、なめこ音楽くわしいんだ？

アイリ
美子
いや詳しいって程じゃ。中学生の時合唱部だったってだけなんで。

アイリ
美子
まあでも、たぶん音楽とは関係ないですかね。

アイリ
美子
なんだろね。

美子
アイリ
先輩は見つけました？二月。

アイリ
美子
私はね、わかったと思う。

美子
アイリ
ほんとですか？

アイリ
美子
はい。
こないだ土曜日にラゾーナ行ったらさ、クリスマスソングが流れてて。

アイリ
美子
わー気が早いなーって思ったわけよ。まだ二月半分も終わってないの

アイリ
美子
につて。したらあそっかこういうことかと思つて。

美子
アイリ
どういうことですか？

アイリ
美子
街に二月は存在しないんだよ。

美子
アイリ
存在しない二月。

アイリ
美子
二月を通り過ぎないと二月にはならないはずなのにね。木々達だって、少しづつ葉を赤く染めて、その葉を一枚一枚舞うように散らして。そうしていくうちに、少しづつ風も冷たくなって、季節は冬へと向かっていくはずなのに、街はそういうの全部無視して、無理やりえいって季節を変えられちゃってるんだなつて。

美子
アイリ
ああ。

アイリ
美子
だから二月を探せつて言うのは、季節を見ろつてことなのかなつて。やっぱりすごいですね加九先輩は。

アイリ
美子
いや別にすごくないつて。

アイリ
美子
そうだ！プリッツ相撲しよう！

美子
アイリ
プリッツ相撲？

アイリ
美子
松葉相撲のプリッツ版。こうやって、引つ張つて、折れた方が負けね。

美子
アイリ
はい。

アイリ
美子
負けた方が罰ゲームね。

美子
えええええ。
アイリ
はい行くよ！せーの！

アイリのプリッツが折れる。

アイリ
うわ私の負けかよ。
美子
何なんですかこれ。
アイリ
はい罰ゲーム。何にする？決めて。
美子
私が決めるんですか？
アイリ
うん。ほら早く！

美子
じゃあ加九先輩。
アイリ
何。

美子
本当に学校、辞めちゃうんですか。
アイリ
んーどうだろ。私は、はっきり言って、辞めたい。てかこれ罰ゲームじゃないじゃん！

生徒が1人、松葉杖をついて入ってくる。

若菜
失礼しまーす。あれ、加九さん？
アイリ
ああ。どうしたの？ケガ？
若菜
ああ、うん。えっと、先生は……？
アイリ
ああ、外にいる。呼ぶ？
若菜
ああ、うん。

アイリ、窓を開けて。

アイリ
せんせー！人来たよー！
美子
（外の先生を見て）あれ？
アイリ
いま来る（よ）
若菜
加九さん学校辞め（るの？）
アイリ
絶対誰にも言わないでね。
美子
あの、今先生、誰かとしやべってませんでした？
アイリ
え、誰かって？
美子
いや、なんか、小学生くらいの男の子？
若菜
えーうそ何やめてよこわいこわい！
アイリ
なめこあんた何、見えるの？
美子
え、いやあの、わかりません、え、なんかごめんなさい。
若菜
そういうえは私聞いたことあるこの学校が出来る前は森で……

神楽
入ってくる。

神楽
2人
お待たせしました。
ぎゃあああああ！

神楽
そんなに叫ぶことありますか。人をそんな幽霊みたいに。

美子
先生、さっき話してた男の子……誰ですか？

神楽
ああ、滑さんにも見えませんでした？

アイリ
えーうそやっぱりマジで？

若菜
うそそうそうそうそ。

神楽
彼は寒太郎くんですよ。

美子
カントロウくん……？

神楽
ご存知ないですか？北風小僧の寒太郎。

美子
え？それって、あれですか？♪きったかっぜいこぞうの寒太郎！

神楽
そうですよ。

若菜
いやいやいやいや、だって北風小僧の寒太郎でしょ。歌じゃん。

神楽
いえいえ、あの歌は、彼をモデルに作られたんですよ。

アイリ
嘘でしょ。本当にそんなのいるの？

神楽
加九さん。目に見えるものだけがすべてじゃありませんよ。目に見え

なくても、確かに存在しているんです。

若菜
先生その、寒太郎くんって、風なんですか？

神楽
ええ、ひゅーん、ひゅーん、ひゅるるーんるんるんるん。

若菜
あ、じゃあ私、わかるかも。

アイリ
どういうこと？

若菜
いや部活で走ってるるとき、風が吹いてるのすごく感じるんだよね。

神楽
この前もあ、風が秋から冬にかわったって。

美子
立冬過ぎましたからね。寒太郎くんですね。

神楽
二月だ！

神楽
それで、足は大丈夫ですか？

若菜
ダメですね。いっちゃってました。

神楽
あらーそうですか。

アイリ
どうしたの？

若菜
アキレス腱断裂。

アイリ
うわっ何それ痛そう。

若菜
部活中のケガだから、色々書類書いてもらって来いって。

神楽
保険効きますからね。明日までに用意しますよ。

若菜
あー全治半年って絶望く！！

アイリ
うわそんなにかかるんだ。

若菜
うん、来年のゴールデンウィークくらいだとして、春はアウトだろうし、半年走れなかったらインハイも出たところだって感じかな……。

神楽
滝口さん陸上部だっけ。

アイリ
うんそう、あ、名前覚えててくれたんだね。え、下の名前は？

若菜

アイリ

若菜でしょ。わかるよ、同じクラスだったんだから。それはつまり、同じクラスになったことない人はわからないってことだよね。

アイリ

や目立つ人はなんとなくわかるけど、えでもそれが普通じゃないの？

若菜

まさつかそうかもね。

アイリ

で、種目とかなにやってんの？

若菜

種目？短距離。

アイリ

短距離って、100メートル？

若菜

うん、100、200、400と、4継っていうリレーがあつてそれが短距離。私の専門は100。

アイリ

足速いの？

若菜

まあ、県で、決勝に行けないくらい。

アイリ

え決勝とかあるんだ。

若菜

そうだよ。短距離って、予選・準決・決勝であつて、準決の3レースの上位2人、3位以下のタイムが早かった2人の合計8人が決勝を走れるの。

アイリ

そこに行けないってことは、9番目ってこと。

若菜

コンマ1秒とかの差なんだよまじ悔しい。

アイリ

でも県で9番目ってすごくない？

若菜

そうだけどき、決勝のレースは、準決までと違って、注目度も高いし、高揚感もあつて、絶対気持ちいんだよ絶対多分。だから本当に決勝はしりたいんだよー！！あ！！！！リハビリ頑張ろう！

神楽

頑張ってください。

若菜

あー先生、体育の時間とかここ来ていいですか？

神楽

まったく、こはしゃべり場ですか。

若菜

いいじゃんだって寒い中ずっと座ってじっとしてるの嫌じゃん！

神楽

どーぞご自由に。先生には自分で言いなさいね。

若菜

わかってますー。あーちようどよかった、私加九さんと話したかったんだよね。

アイリ

え、そうなの？

若菜

うん、あ、ねえ加九さん、「なにぬねの」って言ってくれない？

アイリ

だから、「なにぬねの」って言って？

若菜

え、なんで。

アイリ

いいから。

若菜

え、な、なにぬねの。

アイリ

(ニヤニヤしている)

若菜

なんだよその顔持ち悪いな！

アイリ

ごめんごめん。いやあ、私加九さんのナ行好きなんだよね。

若菜

なにそれ意味わかんない。

若菜

え、だつてよくない？ねえ、わかんない？

美子

わからないです……。

アイリ

いやうんわからなくていいよ。

若菜

えーなんです。

アイリ

いやてゆーかなんでいきなり「なにぬねの」なの。

若菜

ああいいね。

アイリ

いやいいねじゃなくて。だって喋ったことほぼなかったよね。

若菜

ほら、文化祭で演劇部やってるの見てるから。

アイリ

ああ。

若菜

でき、なんかナ行かわいいなーって思っで。でほら、演劇部ってよく

道場裏で発声練習してるじゃん？でその時演劇部が外向いて並んで発

声してる後ろさ、走ってるじゃん。

アイリ

ああ。

若菜

そんな時こっそり加九さんの声聞いててさ、やっぱりナ行かわいいなっ

て思っで。

チャイムが鳴る。

アイリ

先生、変態がここにいます。

神楽

変態につける葉はありません。

若菜

いやいや別に変態とかそういうんじゃないから！

神楽

ほら2時間目終わりましたよ。3時間目から教室行きなさい。

若菜

なんと3、4時間目が体育なんですよねえ。あそれよりさ、この

前の文化祭でやってたかく本って、きやくさんが書いたの？

逆だよ。まあ一応。

アイリ

えずごいね！私すっごい面白かった！

若菜

あーそう？

若菜

そうそれで聞きたかったんだけどさ。最後の方でさ、ほら、タバコ吸

ってた女の子がさ、ほら吸ってたタバコをさ、こう、置くシーンあつ

たじゃん？山口百恵みたいに。あれってさ、結局、タバコやめて更生

するみたいな感じだったけどさ、そういうことじゃないよね？

どういうことだと思っうの？

どういうこと？えーまあ、私が思ったのは、ほら、火消さなかったじ

ゃん。だからそれは、消さないってことなのかなって。火っというか、

熱を、消さない。

なるほどね。

え、違う？深読みしすぎ？

アイリ

ううん。あつてる。

若菜

本当に？あーよかった！

アイリ

まあそれだけじゃないけど。

若菜

え、なににない。

アイリ

いや、ほら、エリーがタバコ吸ってたのって、ハルトを忘れたくなか

若菜
アイリ

ったからじゃん。で、最後エリーがタバコを置くシーンで、あ！もしかしてハルトが死んだ場所！？
そう。

若菜
アイリ

あー！だから、供養的な！あー！うわ泣ける！
で、置き方。山口百恵みたいって言ったじゃん？
うん。

アイリ
若菜

山口百恵がマイクを置くときなんて言ったか知ってる？
知らない。

アイリ
若菜

「わがままを許してください。幸せになります」
……（何もかもつながって絶句している）

アイリ

どうしたの？

若菜

……やばい。

アイリ

そんなに？

若菜

やばいよ。すごい。そこまで考えてたんだ。うわあ、すごい。

アイリ

私もありがとう。なんか、わかってくれて嬉しい。

紫、入ってくる。

紫

失礼します。

アイリ

あ、ゆかり。

神楽

どうしましたー？

紫

ちよつと、ベット借りてもいいですか？

神楽

具合悪い？

紫

いや、ちよつと昨日眠れなくて、寝不足っていうか。

神楽

うーんここは仮眠室じゃないんですけどねえ。

アイリ

大丈夫？

紫

うん、風邪とかじゃないし。

アイリ

あそうわかってくれたの2人だけだよ。あーあと大会の審査員もだから3人か。

紫

何の話？

アイリ

ああ、演劇部の。私を書いた作品の話。

紫

ああ、へえ、滝口さんもあれわかるんだ。

若菜

いやあ、わかるって言ってるいいのかどうなのかだけけど。

紫

いいんじゃない？緑なんて、あわかるよね緑。

若菜

副会長でしょ？

紫

そうでその緑なんかさ、「え？そうなの！？」うわーそういうことだったんだうわー気づかなかったーえーわー」って。

若菜

すっごいわかる。超再生された。

紫

アイリの本はちよつと複雑だよ。深いつてゆーか。

若菜

うーんまあねー。結局表面だけしか見てないんだみんなって感じ。

アイリ

まあでも深いとこまでわからなくても、表面だけでもみんな面白かつ

若菜

まあでも深いとこまでわからなくても、表面だけでもみんな面白かつ

アイリ

たって言ってたし。

ま、でも結局大会地区落ちだけだね。

若菜

え、そうなんだ。

アイリ

JKがタバコを吸う芝居は高校生らしくないし教育的にNSだから上の大会には上がれないって。

若菜

えーまじで。

アイリ

いや、はっきり言われたわけじゃないよ？空気に？そんな感じ。

紫

でももし本当にそれでダメなんだとしたらやばいね。

アイリ

まあでもどっちみち無理だったかな。

若菜

え、そうなの。

アイリ

終わった後、審査員の人に話しかけられてさ。役者が台本を理解しきれてないって言われた。

紫

そうだねー、結局、不良の女の子がタバコとかやめてまともになりました、ちゃんちゃん。としかなくてなかったもんね。

若菜

でもわざわざ個人的に話してくれたんだ。

アイリ

みんなできくりあげた作品ではなくて、1人でつくったような作品に見えたって言われた。

若菜

うわーそこまで言う。

紫

でも正直、わからんでもないよ。あいや、みんな頑張ってたよ。すごいちゃんとやろうとしてたし、みんなアイリの書く本好きなんだなって、この作品をちゃんといい作品にしたいんだなって、ちゃんとみせようって気持ち凄く伝わってきたよ。でもまあ、みんなの全力は、それが精いっぱいって言うか、や、限界ってことじゃないよ。頑張ればもつとできたと思うけど、まあでも、どんなにあがいたとしても、アイリの理想には届かないとは思う。

神楽

加九さんは、みんなを置いて行ってしまったんですね。

アイリ

置いて行った？

紫

ああ、わかる。アイリはさ、私たちなんかよりもずっと先をいつてるなって感じがする。

若菜

うんうん。

アイリ

えーそうなの？

神楽

身体と同じで心も人によって成長速度は違います。周りに置いていかれてしまう子はわかりやすく、周りも手を差し伸べやすいですけど、周りを置いていってしまう子だって、同じように苦しいですよね。

アイリ

……うん、まあ。

若菜

天才は孤独ってヤツ？

紫

あーわかる。美術部の先輩にも一人そんな感じの先輩いるわ。

神楽

加九さん。……見下してはいけませんよ。

アイリ

……。

神楽

どーせわかってくれないだろう。とどこかで諦めてませんでしたか？

神楽

わかってももらえないと嘆くほど、わかってもらう努力はしましたか？

神楽

伝えるというのと、伝わるというのは違います……。

アイリ

わかっているよそんなこと審査員にもおんなじこと言われたよ！作者の意図をきちんと共有できるのが創作のいいところだって！だからちゃんとわかってもらうためにもっと伝えるべきだったって！なんで私ばかりこんな言われなきやいけないの！不公平でしょ！

神楽

なんでだと思えますか？

アイリ

知るかよ！

神楽

それは加九さんが、みんなより先に進んでいるからですよ。

チャイム。陰っていく。

11月21日木曜日。保健室。放課後。美子が帰り支度をしている。
アイリ、入ってくる。

神楽 おそようございます。

美子 加九先輩？どうしたんですかこんな時間に。

アイリ わかった。

美子 何がですか？

アイリ わかったんだよ9番目の音の意味が！

美子 本当ですか！？

アイリ 空の間！

美子 空の間？

アイリ ほら、なめこおまえこの前、9番目の音がソの#って言ってたでしょ？

美子 はい。

アイリ ほら、ソの#で、ソとラの間の音でしょ！だから、ソラの間！

美子 ああ！

アイリ で、空の間って書いて空間じゃん？ほら、なめここの前北風小僧の寒太郎見えたんでしょ？だからほら、本来何にもないはずの、空間に、
18

神楽 あるものが見えるんでしょなめこは。だからその、他にも目に見えないものがある、空間を探せってことじゃない？ですか、先生。

神楽 なるほど、ソのシャープ。目の付け所が

緑、勢いよく入ってくる。

緑 ゆかりー！大丈夫ー！？あーアイリじゃん来たんだおはよー？

神楽 倉持さん、寝てますから。静かにね。

ベットから紫が起きてくる。

紫 大丈夫です。起きました。

神楽 ああ、起きましたか。

アイリ 紫いたのか、どうしたの。

紫 うん、ちよつとふらつとしちゃって。

神楽 フラット。

緑 具合どう？

紫 まあ、ちよつと、寝てスッキリした。

神楽 どれどれ。

アイリ ドレドレ。

神楽 うーん、あんまり顔色良くないですね。
紫 ホントですか？
緑 あ、ミラー、あるよ。
神楽 ミラー。
紫 ありがとう。あーほんとだ。
神楽 どうしましょーか。
アイリ ドーシラソーフア。
神楽 それは無理矢理すぎますね。一人で帰れます？
紫 いやでも、今日図書委員当番なんで。
緑 いや無理しない方がいいって。私言ってくるよ。
アイリ あ、今日木曜日だからもう一人の当番ケンジじゃないの？
緑 あそつか！じゃあ当番終わるまでここで休んでて終わったらケンジに
送って貰えばいいんじゃない？
紫 それはいい。大丈夫だって、座ってるだけだから。
美子 本当に大丈夫なんですか？
紫 えっ。
美子 だって、好きかどうか、わからないんですよ、その、ケンジさん。
緑 あっ……。
アイリ なめこお前聞いてたのか。
美子 悩んでるんじゃないんですか？それこそ、毎晩眠れなくなって、倒れ
ちゃうくらい。
緑 そうなの？紫。
紫 ……どうしたらいいかわからない。
緑 どうしたらいいかわからないって？
紫 ……。
緑 別れたってこと？
紫 ……だって、このまま一緒にいても、ケンジくんの気持ちに答えられ
ない。
アイリ じゃあ別れればいいじゃん。
紫 そんな簡単に言わないでよ！
アイリ えだって、別れたいんですよ？だったら別れようって言えばいいだけ
じゃん。なにそんなに言えない何かがあるの？
アイリ だって、ケンジくんの事嫌いになったわけじゃないし、ケンジくんの
こと、悲しませたくない。
アイリ あのさ、それってエゴじゃん。ケンジのこと悲しませたくないってゆ
ーか、ケンジを悲しませるような自分になりたくないだけでしょ。
紫 ……。
アイリ その言い方は酷いんじゃない？
神楽 なんで？私は……。
アイリ 加九さん。（よくないですよ、と首を横に振る）
アイリ ……ごめん。

紫 ううん。
神楽 篠原さん。……嘘をついてはいけませんよ。
緑 嘘？
神楽 自分の心に、嘘をついて生きてはいけません。もちろん、相手に嘘をつくのも。

紫 ケンジくんと付き合えないのは本当です。でも、ケンジくんを傷付けたくないっていうのも、本当です。
神楽 そうですか。

神楽 篠原さんは、彼のことが大切なんですネ。

紫 ……はい。

神楽 そしたら、その気持ちを全部伝えればいいんですよ。

紫 全部？

神楽 あなたと付き合えないことも、あなたを傷つけたくないことも、それで眠れない夜を過ごして、倒れるほど悩んだことも。全部。大切だから、そう伝えればいいんです。

紫 わかりました。私、図書室に行ってきます。

緑 紫！

紫 大丈夫。私も言いに行くから、緑も言いに行きなよ。

緑 それとこれとは話が違うじゃん！

紫と緑、出て行く。

神楽 加九さん。

アイリ はい。

神楽 はいはい。

アイリ あ、で、どうですか？あってます？9番目の音。

神楽 そうですね、なかなかいい着眼点だと思いますよ。

アイリ じゃあ

神楽 でも残念。そういう意味ではないんですよねえ。

アイリ エエー……違いの！

神楽 でもいいですよ。いいと思います。

美子 え、もしかして、それを言いにくるためにわざわざきたんですか？

アイリ え、や、うーん、あーまあそうか。あ、でもね、一応朝はちゃんと来るつもりで、家でたんだよ。朝。

美子 そうなんですか。えじゃあ学校来ないでどこ行ってたんですか。

アイリ あー、岩舟。

美子 岩舟？

アイリ うん、栃木の。駅。

美子 あ、『秒速5センチメートル』？

アイリ あったりー。聖地巡礼ってやつ？

美子 えーすごいいいですね！でもなんでまた今日。

アイリ やー今朝来る時さ、たまたま電車座れて。そしたら寝ちゃってさ、

起きたら新川崎なの。あーもう折り返してもどーせ遅刻だしなーもう

このまま乗ってっちゃえーって。ちやうど宇都宮行きだったからさ。

美子 ホント、すごいですよねその行動力。

アイリ 別に私的には全然フツーだけどね。でさ。戻ってきて新宿御苑でぼー

っとしてたの。

美子 『言の葉の庭』だ。

アイリ うんそう。もうね、銀杏がね、もうバーって落ちてて。超黄色い絨毯。

美子 もうめっちゃ綺麗だった。

美子 へえー。

アイリ あそうで、二月だなーって。あもうね、新宿とかは、もう完全にクリ

スマスなんだけど。あの新宿御苑の中はね、ちゃんと二月だった。

美子 そうなんですな。

アイリ で空きれいだなーって思っって、ソラかあと思っって。ああ！って。まあ

美子 違っただけど。

美子 いやでもありがとうございます。

アイリ なんかさ。電車の中で考えてたんだけど。

美子 はい。

アイリ フツーさ、行き先違う電車に乗ったのに気付いたら降りるじゃん。で

自分が行きたい方向の電車に乗り換えるじゃん。私今日は乗ったまま

アイリ だったけど。

美子 はい。

アイリ 紫もさ、ああやって、好きじゃないって思ったら、別れるわけじゃん。

美子 でまあすぐ乗り換えるとかそういうわけじゃないけど、いつか別の人

美子 好きになって、付き合ったりするわけじゃん。

美子 はい。

アイリ なんで学校はさ、入学から卒業まで直通運転だと思っ込んでるんだろ

美子 うね。行き先違うと思ったら乗り換えたっていいじゃんね。

美子 そうですね。

美子 先輩、私、二月見つけましたよ。

アイリ なになに？

美子 そこ出たところの上に、蝶のサナギがありました。

アイリ サナギ？

美子 調べたら、蝶も冬眠するんですね。種類によって、サナギに成ったり、

アイリ
成虫のまま冬眠したり色々見たいですけど。
へえ、そうなんだ。

美子
あと、桜も冬眠してるんですって。
どういうこと？

アイリ
桜って、春になったら、芽が出て花が咲くって思ってたんですけど、
そうじゃなくって、もう、花芽は夏の間に来てて、寒くなると、ち
ょうど二月くらいに休眠って言って、冬眠みたいになるんですって。
じゃあ今、その桜の木も眠ってるんだ。

美子
はい。桜って、ちゃんと休眠しないと綺麗に花が咲かなくて。だから、
寒い冬がないといけないんですって。

アイリ
なんか、うちらみたいだね。
えっ。

美子
そうじゃない？
うーん……。

紫、戻ってくる。

紫
ただいま。

アイリ
あれ、どうしたの。行かなかったの？

紫
言ってきたよ。別れようって。

アイリ
え、早っ。そんでそんで。

紫
うんわかったって。これからも友達としてよろしくねって。当番一緒
だしね。

アイリ
そっか。

紫
気持ちの整理したいから一人にしてくれっていうからさ。出てきた。

アイリ
あーそうなんだ。

紫
でもなんか、意外とあっさりだった。あいや、ケンジくんも冷めてた
とかそういうことじゃなくて、私の気持ちわかってくれて、大切に
してくれたんだって。私が気にしなくていいように、笑ってくれた。
そっか、よかったね。

緑、入ってくる。

緑
ただいま！

紫
あ！どうだったどうだった！

アイリ
え、まじ言ってきたの？

緑
なんと！いなかった！

2人
なんだよ！

緑
いや、今日用事があるからって帰っちゃったって。

紫
それで喜んでんの？意味わかんない。

緑
セー……フ！

アイリ

あ、プレゼントの人とデートじゃね？

緑、倒れる。

紫

アウトー。

緑

ああああウソオオおおどうしよううううううう！

アイリ

いや、冗談だから。かもねって。

緑

ううう意地悪ううう。

紫

だからそんなになるんなら言えればいいじゃんね。

緑

あそうだ、で生徒会室で話してきたんだけどさ、来月の合唱コンクールで生徒会も出し物するんだけどさ、寸劇がいいんじゃないかってな
ってて。

アイリ

うわ嫌な予感。

緑

アイリに書いてほしいなって。

アイリ

やっぱりそうなるよねー。

緑

あのね、やりたい話はあるの！美術準備室の天使の絵の話！

アイリ

本当に天使の絵好きなの。

神楽

天使の絵？

緑

えーもしかして先生、天使の絵見てないんですか！？

神楽

ええ。有名なんですか？

緑

説明しましょう！我が横南高校の美術準備室には、壁いっぱいにつ

神楽

ごいキレイな天使の絵が描いてあるんです！

神楽

ほお。

緑

実はこの天使の絵。聞くと涙、語るも涙の切ないエピソードがありま
して。

緑、袖から紙芝居を取り出す。

アイリ

おい今それどっから取り出した？

緑

今から25年前、この横南高校に、それはそれは美しい女生徒が通っ
ていました。その女生徒は、いつも明るく勉強もでき、心優しく、行
事や委員会にも熱心な、皆に愛される人でした。

アイリ

これは何？

紫

紙芝居、横南高校思い出物語シリーズ。

アイリ

何そのシリーズ。

紫

ほら、この学校今年で閉校するでしょ。だから学校がなくなってもみ
んなが横南高校のことを思い出せるように、いろんな話を集めて紙芝
居にしているの。

アイリ

何それ。

緑 アイリ
紫

しかし！その女生徒は実は、不治の病を抱えていたのです！
うわーいきなり展開ぶっ飛びすぎ。

あ、でもこれは本当らしい。
ひよんなことから、その女生徒の秘密を知ってしまった美術部の少年、カセットテープでの交換日記を通して人知れず互いに惹かれあう2人、けれどいつかるる彼女の死の前に、互いに想いを告げられずにいました。そうしているうちに彼女の病気がどんどん重くなり、病院生活を余儀なくされてしまいます。彼は、彼女の最後の願いを叶えるため、彼女を病院から連れ出すのですが、そこで彼女は倒れてしまいます。そして程なくして彼女はこの世を去ってしまいます。彼の手元に残されたのは、彼女の声が記録されたカセットテープ……。彼は彼女への愛と彼女が死んだ悲しみを全てぶつけ、美術準備室の壁に彼女の絵を描きました。彼女が死後の世界で美しい天使になって、見守ってくださりますようにと願いを込めて……。はい！これが、美術準備室の天使の絵にまつわる切ない恋の物語でした！

アイリ

作り話感がすごい。

紫

まあ病気で死んだ女の子がモデルってところ以外は緑の妄想だから。

アイリ

途中ほぼセカチューだったぞ。

緑

しよーがないじゃん！私脚本とか書けないもん。そんなこと言うなら

アイリ

アイリが書いてよ！

アイリ

はあなんで？

神楽

(拍手) 素晴らしい紙芝居でした。

緑

本当ですか！

神楽

ええ、このようにして紹介いただいたら、見にいかないわけにはいかないですね。

緑

はい！もうほんつとにすっごいすっごいキレイで！私もあんな風な天使

神楽

使になりたいって思ってるんです！

緑

天使になりたい？

神楽

あ、いや。その、天使みたいに、みんなに優しく、いつでも笑って、

紫

愛される人になりたいなって。

緑

よっ！横南のエンジェル！エンジェル緑！

紫

はい！副会長に立候補しました倉持緑です！美術準備室の天使の絵の

緑

ように、みんなを笑顔にする明るい学校を目指します！

アイリ

今年で閉校だけどね。

緑

みんなのエンジェル！倉持緑に清き一票をお願いします！

紫

これをバカ真面目にやっつてんだから本当に面白いよね。

緑

なれますよ、天使。

神楽

本当ですか？

緑

ええ、本物の天使になれるんですよ。

神楽

紫
アイリ
神楽

緑

紫

神楽

紫

神楽

緑

神楽

紫

緑

アイリ

緑

何言ってるんのあの先生。

そうなのなんか意味わかんないことばかり言うの。

天使と悪魔には、それぞれ9つの階級があるんです。そしてその下にさらに3つ、人間としての階級があります。ああいや、わかりやすく言い換えると、天使と悪魔は12の階級があつて、そのうちの下3つの階級は、人間の姿をしているんです。人間はこの12と12の間の、13番目の位に生まれてきます。そうして、清い心を持って善く生きれば天使の階級、悪しき心を働かせれば悪魔の階級がそれぞれ上がり、9番目の階級になつた時、人は天使または悪魔に姿を変えるのです。
へえー！

それはつまりどういうことですか？

どういうこととは？

9番目の位になつた人は、死んでから天使か悪魔になるんですか？

まあ、そうですね。死ぬというより、魂として、人間の器が不要になつたとも言うのでしょうか。

つてことは？

ええ。善い行いを重ねれば、いつか天使になれますよ。

でもそれって、死ぬってことでしょ。

はい！でさ、この紙芝居を寸劇にしてほしいなって！

やーちよつと無理かな。

えーなんでよ。お願いだよー。アイリが書いてくれたら絶対にいいものになるから！それにさ、この前みたいな暗くてムヅカシイのじゃなくてさ、もつと明るくて感動できるの書いた方がいいって！

25

アイリ、机を思い切り叩く。

美子

アイリ

加九先輩…？

お前はただ誰かに自分のこと見てもらいたいだけだろ！

緑

アイリ

何いきなり。

私の何を知ってるのさ！

紫

アイリ

ちよつとアイリ。

ほつとけよ！何であんたにそんなこと言われなきゃいけないんだよ！わかってない！全然見てない！自分が周りに囲まれてたいだけじゃん！自己中なんだよ！そんなの全然天使じゃないんだよ！

美子

神楽

緑

神楽

加九先輩！落ち着いてください！

…2人とも、出ましようか。

でも。

お願いします。

緑、出て行く。

紫

アイリ。わかってもらえないっていうんならさ、小説とか書いた方がいいんじゃないって。

紫、出ていく。

アイリ

何にもわかってない！私のことなんかみちやいない！

神楽

そうですね。

アイリ

小説を書くのは1人でもできるんだよ！！ふざけんな！！私は演劇がしたいんだよ！！！！

陰っていく。

二月29日金曜日。保健室。朝。外は強めの雨が降りつけている。
アイリが来る。

アイリ おはようございます。

神楽 おはようございます。おや。

神楽 今日は金曜日で、しかもこんな大雨だというのに、来たんですね。

アイリ だって、今日で先生最後でしょう？

神楽 そうですね。まあ一応、二月は30日までなので明日までですが、明日は土曜日ですからね。それで来てくれたんですか。

アイリ うん。

神楽 ありがとうございます。よく来ましたね。ちょうど、コーヒーが入ったところです。

神楽 コーヒーをカップに2人分注ぎ、片方をアイリに差し出す。

アイリ いただきます。

カップを受け取るアイリ。湯気に息を吹きかける。

神楽 もうすぐすぎるようですが、こんな雨ですと交通機関も遅れていたでしょう。

そう言って神楽はコーヒーを飲む。熱を感じないかのよう。

アイリ コーヒー、苦いですね。

神楽 コーヒーですからね。

アイリ わかっていますか？

アイリ 私は熱くてそんな風に飲めません。

アイリ 先生。先生は、誰なんですか。

神楽 誰？私は小町神楽で

アイリ そうじゃなくて。誰なんですか。

神楽 言っただけ信じているんですか？

アイリ 信じてるよ。Truth is stranger than fiction.

神楽 そうですか。

神楽 私は、天使です。

アイリ 天使？

神楽 そうです。

アイリ 9番目の階級の？

神楽 ええ。

アイリ 本当に。

神楽 本当に。

アイリ じゃあ先生は、元は人間だったんですね。

神楽 そのようですね。

アイリ そのようですね？

神楽 人間の時の記憶はないんですよ。

アイリ そうなんですか？

神楽 加九さん。

アイリ なんですか。

神楽 正体を明かしておいてなんですが、私のことはあまり言えないのです。

アイリ どうして？

神楽 それは……作者が天使の世界の設定を考えるのが面倒だからですよ。

アイリ それは言ってしまったていいの？

神楽 もし設定が決まっていたとしたら今から五分くらい天使の世界の説明

アイリ 台詞が延々と続くことになりましたが。

神楽 それはそれでいやだね。

アイリ そうでしょう。ですから私のことはいいんです。何よりこの物語の主

神楽 人公は、あなたなのでから。

アイリ じゃあさ、一つだけ聞いていい？

神楽 えー。

アイリ いやえーじゃないでしょ聞かせてよこの物語の主人公は私なんですよ。

神楽 何ですか。

アイリ 天使は生きてるんですか？

神楽 質問の意味がよくわかりません。

アイリ 私思うんです。よく、死後の世界の話ってあるんですけど、幽霊とか

死神とか、地獄とか、天国とか。まあ色々あるんですけど、どれも大

体、現世に対して後悔とか未練とかがあるんですよ。もっと〇〇した

かったとか。こう生きればよかったとか。

神楽 はいはい。

アイリ でも私、それってすごいかしいなって思うんです。だって、どの世

界も、現世と大して変わらないんですよ。え、それってその世界でも

できるよね？わざわざ人間界で生きたいって思ってたまですることじゃ

ないよね？って。その世界でやり直せばいいだけじゃんって。

神楽 なるほど。

アイリ

大体、違う世界の話なのに、生きる意義が人間と同じっていうのが冷めるんですよ。同じような生き方をしているのだとしたら、人間が人間界で生きていく意味がなくなるんです。

神楽

つまり？

アイリ

死んだっていいってことだよ。同じように魂が存在してるなら、天使だって悪魔だって幽霊だって変わらない。人間である必要がない。

神楽

そうですね。

アイリ

人間がこの世界に生きていくには、この世界じゃないとできないことがないといけないはずなんです。

神楽

加九さん。

アイリ

はい。

神楽

生きてるって何だと思いますか。

アイリ

私は、生きてるっていうのは、心を動かすことだと思う。

アイリ

嬉しい時はちゃんと喜んで、悲しい時はちゃんと泣いて、ムカついたらちゃんと怒る。HeartはEarthのアナグラム、人が心を持てるのは地球に生まれたから。だから、たとえ苦しいことでも、辛いことでも、ちゃんと抱えていくことだと思う。悩んだり、葛藤したり、後悔したり、この世界で生きていけないことだって思いたいです。

神楽

いいと思いますよ。

アイリ

天使は生きてるんですか？

神楽

そういう意味で言えば、天使は生きていません。

アイリ

そうですね。

神楽

加九さんのおっしゃる通り、天使には、感じるという部分が著しく欠如しています。

アイリ

へえ。

神楽

熱さ、苦味、香り、正直何も感じません。

アイリ

じゃあなんでコーヒー飲んだんですか。

神楽

人間ぼくしなないと思いました。

アイリ

何それ。

神楽

感じる事ができないのです。季節の移ろいを。花の香りも、日差し
の温もりも、風の冷たさも。葉の染まる色も、果実の落ちる音も。

アイリ

だから、二月を探せって言ったんですね。

アイリ

天使から見て、生きてるって何ですか？

神楽

そうですね、

神楽

目に見えないものを信じることだと思います。

アイリ

目に見えないものを信じる。

神楽

天使は感じる事ができない代わりに、見えないものが見えるんです。

アイリ

寒太郎くんとか？

神楽

ええ。他にも愛とか、夢とか、絆とか、祈りや願い、希望なんかも。

アイリ

面白いですね。

神楽

それが天使です。

神楽

人間が生きているというのは、私達天使が感じる事の出来ないものを感じ、かつ、私達の目に映る見えないものを見えないけれど確かにあると、信じて感じる事だと、私は思います。

神楽

聞かないんですか。

アイリ

何を？

神楽

私には、見えてますよ。

アイリ

だって聞かなくてもわかってますもん。

アイリ

みんな私のことちゃんと友達って思ってくれてるし、教室来ないの心配してるし私の書いた本も面白って思ってくれてる。嬉しいって思う。親だって、本当に私のこと考えて愛してるから、だから、ええ。

神楽

でも！私には希望も見えるから！夢もあるから！卒業したら終わっちゃうような関係じゃなくて。もっとちゃんと、もっと強く私のことわかってくれる人達に出会いたいから。もっと自分が楽しく生きられる未来があるって信じてるから！だから、私は、今を変えたい！

30

アイリ

先生、二月見つけたよ。

神楽

なんですか。

アイリ

寂しい！二月は寂しい。このわけのわからない寂しさを感じさせてる

神楽

のは二月だよ。二月がこんなに寂しい気持ちにさせるんだよ。

そうですね。それは仕方ないんです。二月は寂しいんですから。ほとんど目立つことなく誰にも見向きもされずに、見つけられるのをじっと待ってる。寂しいです。とっっても寂しいです。

アイリ

先生は寂しいとか感じれないでしょ。

神楽

でもね、加九さん。

神楽

季節は決して立ち止まりません。いつでも移ろい過ぎ去っていきます。寂しい二月ももうすぐ終わりです。冬来りなば春遠からじ。花咲く準備はできていますね。加九さんが誰かを待つように、誰かが加九さんを待っていますよ。

陰っていく。

「Ending」

12月2日月曜日。保健室。2時間目の途中。

美子がゆでたまごの殻をむいている。アイリ、くる。

アイリ おはよー。

美子 おはようございます。つてもう2時間目終わりますよ。

アイリ いやあ、寒くて布団からでれなくて。

美子 あるあるですね。

アイリ なめこは今日もゆで卵タイム？

美子 はい。あ、マフラー。かわいい。

アイリ でしょ？イエーイサンキュー。昨日買ったんだ。誕生日プレゼント。

美子 えっ先輩誕生日だったんですか？

アイリ うん、昨日。

美子 えっおめでとうございます！

アイリ ありがとうー！

美子 えーどうしようわたし何もあげるものない。

アイリ いいよいいよそんなわざわざ。

美子 でもー。

アイリ あ、じゃあゆで卵一口ちょうだい。

美子 えーそんなんでいいんですか？

アイリ いいのいいの。

美子 じゃあ、はい。

美子、殻をむいたゆで卵を差し出す。

アイリ あ！なめこ！キレイに剥けてんじゃん！

美子 ああ、先輩。卵って、剥きやすくする方法がいっぱいあるんですね。

アイリ そうなんだ？

美子 はい。茹でた後すぐ氷水につけたりとか、鮮度もいいのより少し古い

卵の方が剥きやすいとか。今までお母さんのゆで卵は元々すごい剥き

にくい作り方だったんですよ。

美子 そうなんだ。なめこが不器用なせいじゃなかったんだね。

美子 はい、どうぞ。

美子、アイリに卵をあーんする。

アイリ いただきます。うん、美味しい。

美子 そうですか？

アイリ うん。うまいよ。

美子 先輩。私、地域の合唱団に見学に行ってきたんです。

アイリ おお！どうだった？

美子 楽しかったです。あ、ほとんど大人の人たちなんですけど、中学生とか、小学生も何人かいて。

アイリ そうなんだ。それで、やるの？

美子 まだわからないですけど、やりたいなって。

アイリ そっか。

美子 でも、ちようど、第九の練習してて。

アイリ 第九？

美子 よろこびの歌です。

アイリ ああ。へー、よろこびの歌。

美子 年末によく歌われるんですよ。

アイリ そうなんだ。

チャイム。話しながら美子は荷物をまとめていた。

アイリ あれ、なめこ帰るの？

美子 いえ。

美子 教室。行きます。

アイリ 大丈夫？

美子 わかりません。

アイリ でも行くの。

美子 行きます。

アイリ なめこ。歌え。

美子 え？

アイリ 歌っていけ。

美子 今、ですか？

アイリ そうだよ。

美子 何をですか？

アイリ なんでもいよ。いいから歌え。

美子、第九を歌う。

アイリ 声が小さい！

アイリ もっと出せ！！

アイリ、途中から美子に合わせて歌う。美子より大きな声で歌う。美子も負けじと高らかに歌う。ふたりの歌声は窓を突き抜けて、晴れた冬空に高く飛んでいくようだ。

2人

晴れたる青空 ただよう雲よ

小鳥はうたえり 林に森に

心は朗らか よろこびみちて

見交わす我らの 明るき笑顔

アイリ

いい歌だね。

美子

はい。

美子

じゃあ、いつ。

アイリ

いつてきますは言うな。

美子

なんでですか？

アイリ

いつてきますつて言ったら、帰ってこなくちゃいけなくなるよ。

美子

お前の居場所はどこなのか。ここにただいまっていいのか。

アイリ

言いません。

美子

おう。

アイリ

でも加九先輩！

美子

何。

アイリ

たまには遊びに来ていいですよね？

美子

私はいないよ。

美子

……。

美子、出て行く。アイリ、歌う。

アイリ

心は楽しく しあわせあふれ

アイリ

響くは 我らのよろこびの歌

若菜が来る。

若菜

おつー。

アイリ

おつー。あ、ギプス取れたんだ。

若菜

うん。あれ加九さんだけ？

アイリ

神楽先生は二月だけだから。

若菜

志和ちゃんは？あと、1年の、なめこちゃん？

アイリ

なめこは、教室。

若菜

ああ！教室行っただんだ！頑張ったね。

アイリ

時が来たただだよ。

若菜

志和ちゃんは？

アイリ さあ？遅刻？
若菜 なにそれ！もう3時間目だよ？
アイリ 知らないよー！さ、掃除でもすつかない！手伝え！
若菜 えー。

若菜も掃除を始める。

若菜 それで。加九さんは結局どうするの？
アイリ 次通おうと思ってるんがさ、途中の編入がなくて4月入学だけでさ。

一応試験もあつて。2月が願書提出なんだよね。だから、1月31までは通えっていう条件。

そうなんだ。じゃあ後2ヶ月か。

若菜 まー2ヶ月くらい頑張つて教室行こうかな。私も。ああそうしょ！
アイリ みんなに言うの？

若菜 うーんまあ、冬休み明けてからでいっかなーって。あんまりあいつ辞めるんだみたいに思われながらいるのも嫌だし。

そっか。これカレンダーめくつていい？

ダメ！

若菜 え、なんで。

アイリ まだダメ。

若菜 あそう。

あのさ。今更だけど、どうして辞めようと思ったの？

「〇月末にさ、あつたじゃん。全国模試みたいな、学力テスト？

ああ、予備校のね。

そこになんか志望校書くところあつたじゃん。

うん。

終わつたあとさ、後ろの席で男子が話してて。あ、久我つてわかる？

ああ、うんわかる。

久我と、あと2人はまあいいか。3人が志望校どこ書いた？みたいな話してて。で久我が、慶應と早稲田つて書いたつて言つてて。

うん。

若菜 なんか私思わず振り返つて聞いちやつたんだよね。「なんでその大学行

きたいの？」つて。そしたらなんて言つたと思う？「特にないけど」

つて。は？つてなるじゃん。やりたいことないのになんで行くの？つて。そしたらさあ「親が明治と立教だから、それ以上のランク行かな

きゃ見下されるし、まあいいとこ行つとけばいいとこに就職できるか

なつて」とかほざいて。あーこいつ本当中身ないんだなつて。私こん

な奴と同じ教室で勉強してるんだつて思つたらなんかもう本当に嫌に

なつちやつて。

若菜 ああー。

アイリ

いやもちろんみんながみんな久我みたいじゃないってわかってるよ。でもなんか、もう、本当にダメだなって。

若菜

そっか。

アイリ

てゆーかさー！とりあえずいいとこっていうんなら東大京大書いとけよって感じじゃない？むしろハーバードとか書いてるなら逆に好感持てるけどね。中途半端な生き方してんなよって思う。

若菜

みんながみんな、加丸さんみたいに潔く生きれるわけじゃないから。

アイリ

わかってるよ。

若菜

加丸さんいなくなったら寂しいな。

アイリ

なめくじのろのろなにぬねの。

若菜

あーもう！

アイリ

地球は丸い！じゃ、私も教室行くから！後よろしく！

若菜

えーちよつとー！なにこれー卵の殻？

アイリ

ああ、それなめこの殻！

若菜

どゆこと！

アイリ、出て行きすぐ戻って来る！

アイリ

あ、そうだ忘れてた！

アイリ、カレンダーをきれいにめくって。

アイリ

15月だね。

幕